

和歌山県みなべ町沿岸で小型魚類を捕食した 稀少種ヒクラゲ(刺胞動物門, 箱虫綱, アンドンクラゲ科)

森 喜信*・久保田 信**・上野俊士郎***

Yoshinobu MORI, Shin KUBOTA and Shunshiro UENO: A rare cubomedusa *Tamoya haplonema*
(Cnidaria, Cubozoa, Carybdeidae) eats a small fish at a seacoast of Minabe town,
Wakayama Prefecture, Japan

2010年1月11日午前10時22分に、日高郡みなべ町のショウガセというダイビングポイントの水深17 mで、森が1個体のヒクラゲ *Tamoya haplonema* MÜLLER 生体に遭遇し撮影した(図1)。その時、この個体の胃腔内には1尾の魚が捕獲されていた。当日の天候は曇天でどんよりとしており、水中も暗かった。透明度は8 m程度で、付近の水温は15℃前後であったが、海水面近くはもう少し冷たかった。ヒクラゲは遭遇地点のドロップオフに浮遊しており、壁から約3-5 m程度離れていた。その個体から数10 cmほどの距離まで接近して撮影を開始したが、上方へ逃げ去った。このヒクラゲの大きさは人の握りこぶし程度で、傘高11 cmで傘幅が最大7.5 cm程度と目測された。4本の触手は30 cm以上に伸張した。

ヒクラゲは強い刺胞毒を持ち、体長数cmの稚魚を十分に捕獲する能力を有しているが、自然状態で本種の胃腔内に捕獲されたばかりの魚を記録した報告は今までにない。その魚は形態から判断してヒメジ *Upeneus japonicus* (HOUTTUYN) であると推定された。ヒメジの稚魚は成魚と異なり表層付近で生活するが、それらの分布域と成長段階から捕食された個体は稚魚である可能性が高い。ヒクラゲは夜行性であるが、捕食した稚魚が胃腔内にまだ原形を留めていることは捕食から時間の経過があまりないことを示している。当日が曇天であったので、捕食時間は明け方前後であった可能性もある。その理由は、傘内が若干緑系に着色しており、消化された稚魚の色素が体内に少しだけ広がり始めていると判断したことによる。

和歌山県およびその近隣の沿岸でのヒクラゲの生息記録は極めて少なく、久保田(1998)により田辺湾周辺海



図1 和歌山県みなべ町沿岸でヒメジ稚魚を捕食したヒクラゲ。

Fig. 1. *Tamoya haplonema* eats a juvenile of *Upeneus japonicus* at a coast in Minabe town, Wakayama Prefecture, Japan.

域への稀な出現がまとめられている程度であった。その後の報告としては、上野ら(2001)が2000年6月和歌山県白浜町袋湾産1個体(傘径90 mm)を、また大塚ら(2009)が2004年12月と2007年10月に大阪府岬町多奈川沿岸域でそれぞれ2個体(傘径95 mm, 115 mm)と1個体(傘径140 mm)、及び2007年12月に和歌山市加太港で1個体(傘径140 mm)を報告しているだけである。

謝 辞

胃腔内の魚種の査定をして頂いた須田有輔博士(水産大学校生物生産学科教授)に深謝致します。

* 〒607-8165 京都市山科区柳辻平田町145 (145 Hirata-cho, Nagitsuji, Yamashina, Kyoto, 607-8165 Japan)

** 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所 Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University (459 Shirahama, Nishimuro, Wakayama, 649-2211 Japan)

*** 〒759-6595 山口県下関市永田本町2-7-1 水産大学校 National Fisheries University (2-7-1 Nagata-Honmachi, Shimonoseki 759-6595, Japan)

引用文献

- 久保田 信. 1998: 田辺湾周辺海域の腔腸動物立方水母目(刺胞動物門, 立方クラゲ綱). 瀬戸臨海実験所年報, 11, 33-34.
- 大塚 攻・上野俊士郎・藤井直紀・村井貴史・重田利拓・河原正人・佐々木克明・下埜敬紀・高橋卓史・小島太一・富川 光・奥泉和也・河村真理子・久保田 信. 2009: 瀬戸内海及び和歌山県西部沿岸における大型立方クラゲのヒクラゲ *Tamoya haplonema* の分布と生態. 2009年度日本海洋学会春季大会発表講演要旨集, p97, 東京.
- 上野俊士郎・河村真理子・佐々木克明・久保田 信・山口麻美. 2001: 最近のヒクラゲの出現と若干の生物学的観察. 2001年度日本海洋学会春季大会発表講演要旨集, p84, 東京.